

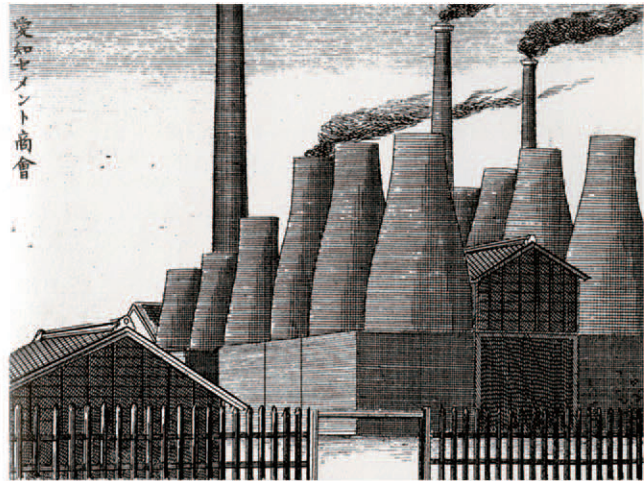
30 白鳥貯木場 (大正2年頃)

江戸時代の初めに木曾が藩領になった頃、白鳥に貯木場が設けられた。それにより名古屋は木曾檜の集散地となり材木業が発達し、明治以降は堀川沿川や港にたくさんの貯木場がつけられた。



31 愛知セメント商会

白鳥橋の東付近は、かつては島になっていて、明治21年に愛知セメント商会が工場を建てて操業していた。近代建築が増えるとともに需要が高まり工場を増設した。30年頃になると粉じんにより周辺住民が公害反対運動を繰り広げたが、その後経営上の問題から工場は閉鎖された。(尾張名所図絵)



32 熱田の魚市場 (明治43年頃)

熱田は門前町であり七里の渡しのある宿場町という顔の他に、漁師町という面もあった。大瀬子など堀川沿いに魚市場があり、毎日活気のある取引が行われていた。



33 堀川岸の養魚場 (明治43年頃)

明治35年、明治新田に愛知県水産試験場の淡水試験場が開設された。ボラ・鯉・うなぎ・スッポンなどが養殖されたという。大正元年に廃止されている。

